

平成26年度 第1回市民活動サポートセンター運営懇話会 会議概要

平成26年5月22日（木）18:30～20:10
横須賀市立市民活動サポートセンター

出席者 11名…柏崎、浅羽、井上、神津、澤田、根本、早川、古田、前川、吉田（正）、井手之上
欠席者 1名…吉田（弘）
事務局 2名…市民生活課 山中、川瀬
指定管理者 2名…NPO 法人 YMCA コミュニティサポート 高橋、大島（理）
傍聴者 1名

配布資料 1 市民活動サポートセンター例月実績報告・利用者の声
2 NPO 法人 YMCA コミュニティサポート 2013 年度事業報告
3 NPO 法人 YMCA コミュニティサポート 2014 年度事業方針・計画書
4 夏の市民活動・ボランティア体験 2014 企画書
5 サポートセンターデータベース登録団体一覧・新規異動分
6 平成26年度市民協働推進補助金交付団体一覧
・ サポートセンターの若年層ボランティア登録・活動について（案）
・ 定年退職世代を地域社会に引き込むための企画案
・ 神奈川県「企業とNPOのパートナーシップ支援事業2013」チラシ
・ プロボノ 横須賀事業について（仮）
・ 条例・要綱一式

1 職務代理者の指名

平成25年度第4回懇話会での座長改選に伴い新座長となった柏崎氏が、座長職務代理者に古田氏を指名し、承認された。

2 報告事項

2-（1）利用状況・利用者の声について

指定管理者及び市民生活課から、資料1に沿って報告した。

（指定管理者：汐入について）

- ・利用者数は前年度比で100.5%という微増。3月でやや落ち込み。平成20年から右肩上がりが続いているが一昨年からの伸びが鈍化。26年4月も前年度比で減少。5月は21日時点で前年度よりかなり上回っているため、4、5月で見ればプラス。注視していきたい。
- ・コピー機印刷機の前年度比は、利用料金収入ベースでは増加している。
- ・分野別利用者推移を見ると、町内会・自治会などの「まちづくり」、「子どもの健全育成」を活動分野とする団体の利用が減っている。センターを一番利用している「学術・スポーツ・文化」の団体は前年度比でそれほど変化がない。

- ・コーナー別利用者数を見ると、ワーキングコーナーとミーティングコーナーの利用者数が減少している。大人数での利用、印刷機等の利用が減っていると分析できる。キッズコーナーの利用数も落ちているので、分野別利用で見られた「子どもの健全育成」団体の利用落ち込みに関連しているか。
- ・曜日、時間別利用者数については、火曜日と土曜日、午前中や午後2時台の利用が多い。
- ・活動紹介コーナーの利用については人を呼べるような工夫が必要と考えている。
- ・利用者の声への対応については資料のとおり。

(市民生活課：久里浜・追浜について)

- ・利用者数としては前年度比8割程度に落ち込んでいる。3月に市内の全町内会・自治会あてに汐入・久里浜・追浜のサポートセンター利用案内を発送したが、まだ成果が見えてこない。
- ・コピー機の利用が前年度比でかなり増えている。25年8月に機器更新し、故障もなく順調にサービスを提供できている。印刷機は紙詰まり等の不具合が頻発しているので、対応が必要と考えている。

(懇話会構成員からの質問・意見)

- ・コピー機と印刷機の利用料金とコストの収支はどうか。
 - 汐入は昨年7月にコピー機、印刷機とも機器更新をして、現在のところコピー機に関しては大きく黒字、印刷機に関してははかろうじて黒字、という状況。導入後一年間は保守料がかからないが、26年7月以降は保守料がかかってくるためこのままだと赤字になる見込み。消費税率がさらに上がった場合には料金改定を検討しなければならない。(指定管理者)
 - 久里浜・追浜はコピー機については収支がほぼ合っている。印刷機はすでにリース期間終了し、消耗品コストのみの為、黒字。(市民生活課)
- ・消費税率の値上げについては影響しないのか。
 - 利用料金については、4月の消費税率改定によって変更しなかった。しかし消耗品の購入については4月から税率8%で支出しているため、収支は厳しくなっている。(指定管理者)
- ・利用料金ベースでの収支はプラスとのことだが、実際の利用数としてはどうか。
 - 月によって異なるのと、以前のデータが今ほど正確ではないという条件はあるが、利用数は若干減っていると思われる。金額面のプラスは25年7月に料金体系を変えたことによるもの。(指定管理者)
- ・コピー代については消費税はかかっているのか。
 - リース代については消費税がかかっている。利用料金については白黒一枚10円で従前と変わらず。(市民生活課)
- ・印刷機の料金体系は現在10円未満切り捨てだが、消費税も上がったことだし、切り上げにすればよいのでは。
 - 今後検討したい。(指定管理者)
- ・1円単位での利用料金設定にはできないのか。
 - コインベンダーを使用しているので難しい。導入当初、10円未満切り上げ、切り捨て、四捨五入が選択できたが、切り上げは利用者の理解が得られにくいこともあり、切り捨てとした。(指定管理者)

2-(2)平成 25 年度事業報告

指定管理者から資料 2「YMCA コミュニティサポート 2013 年度事業報告」に沿って、報告した。一部、参考として NPO 法人 YMCA コミュニティサポートに関する事業活動の報告もあった。

①市民活動支援施設運営管理事業について

- ・サポートセンターの運営に関して市と協定を結んで実施するもの。
- ・情報発信業務として、自治会・町内会向けリーフレット作成・配信、施設紹介リーフレットのリニューアル、施設内公衆無線 LAN 整備による利便性向上、利用者用パソコンの更新、特筆されるイベントへの共催支援、団体の Web サイト作成支援について、25 年度新たに取り組んだ。
- ・NPO 法改正による税制に関する相談等が増えるだろうという予想のもと、セミナー、学習会を実施し、職員のスキルアップに取り組んだ。受付ではそれほど相談を受けなかったが、引き続き対応できるようにしていきたい。

②市民活動支援事業について

- ・サポートセンターで指定管理者が自主的に行う事業。
- ・学生ボランティアの登録数が 400 人を超えた。需要と供給のバランスが崩れているのが現状（→平成 26 年度事業計画参照）。
- ・新聞社 OB に広報支援ボランティアを委嘱した結果、団体のイベントについて新聞掲載が増えた。
- ・NPO の自活のための新しい動きである、ネット上で寄付金を集めるクラウドファンディングを実施。NPO を支援するためにはまず自分たちがやってみなければいけない、ということで申請。
- ・平成 25 年度事業計画として載せておきながら実施できなかった未着手分としては、情報発信の CMS 化（Web 上で情報発信を簡単に行う方法）。登録団体のイベント情報をネット上に載せていきたいという計画だったが、費用面の問題もあり実施できず。今年度引き続き計画していきたい。
- ・市民活動促進指針のステップ評価についての検証についても未着手。今年度へ継続。

（懇話会構成員からの質問・意見）

- ・その年度の計画に対してどれだけ実施できたか、という報告でないと分かりにくい。
- ・昨年度の計画段階において懇話会から様々な意見が出たと思うが、そうした意見がどういった部分で反映されたか、このような場所で報告いただきたい。
→ご意見を受けて、検討させていただきたい。（指定管理者）

2-(3)平成 26 年度年間事業計画

指定管理者から資料 3「YMCA コミュニティサポート 2014 年度事業方針・計画書」に沿って、報告した。

1. 市民活動支援施設運営管理事業について

- ・ホームページの作成支援については今年度力を入れていきたい。
- ・中間支援施設との連携も積極的に行っていく。ひくてあまたのお父さんプロジェクトの他、様々な意見交換をしているところ。

2. ボランティア・市民活動人材育成事業について

①若者の市民活動参加を促す

- ・当日配布資料「サポートセンターの若年層ボランティア登録・活動について（案）」を参照。
- ・新たに「のたろんボランティア」として、登録団体から、サポセンに学生ボランティアを要請してもらい、ボランティアの派遣、コーディネートをしたい。
- ・ばらばらに募集、活動していたボランティアを、大きく「ユースサポーター」という形でまとめ、情報発信を広く行っていきたい。
- ・さぼせんサポーターズの登録数 400 名超に対して、H25 年度は活動実績が年間延べ 380 名、実質 100 名程度しかボランティア派遣できておらず、需要と供給のバランスが崩れている。ボランティアをしたい、という気持ちに応えられるよう、卒業までに複数回、活動場所を提供できるように「ユースサポーター」という新たなシステムを設けたい。

②団塊の世代と定年退職世代を市民活動に取り込む

- ・ひくてあまたのお父さんプロジェクト第 2 弾（当日配布資料「定年退職世代を地域社会に引き込むための企画案」参照）の準備中。メイン企画の講演会にはさわやか福祉財団の堀田力氏を招聘。平成 25 年度と同じように協力企画を各団体から募る予定。目標約 70 企画。生涯学習財団、ボランティアセンター、シルバー人材センターと市民活動サポートセンターの 4 団体が主催。なお、プロジェクトの名称については「生涯現役プロジェクト」から「ひくてあまたのお父さんプロジェクト」へ変更。市の事業名称と同じになってしまったため。
- ・プロボノ（当日配布資料「プロボノ 横須賀事業について（仮）」参照）は平成 26 年度を周知の年と位置付け。5 月からアンケート調査を開始している。6 月に NPO 向け説明会、9 月にワーカー向け説明会を開催、11 月にはレディネスワークショップとして一日限りでプロボノを試行するなど、各種イベントで事業を広くお知らせしたい。

②市民活動の「場」創出事業

- ・夏休み版チャイルドファクトリーをサポートセンター内で開催予定。子ども関係団体の活動の場を創るとともに、利用者数が落ち込む 8 月に、新たに人を呼び込む企画として考えている。学童保育の協力を得て一般のお子さん、お母さんを呼び込めるようにしたい。
- ・企業と NPO のパートナーシップ支援事業（当日配布資料参照）は、もともと神奈川県 NPO 協働推進課で行ってきた事業で、平成 25 年度までは県と、NPO 法人ソーシャルコーディネートかながわ（県民活動サポートセンターのアドバイザー相談事業を受託）がコーディネート役となって進めてきた。今年度は企業と NPO、大学も含めてのマッチングを、神奈川県内の各地域の市民活動支援センターと県が協働で実施することになり、横須賀ではこの市民活動サポートセンターで行うことが決定。企画段階からサポートセンターも参画し、どのような団体を発表者に呼ぶかというところから打ち合わせ中。9 月 9 日に産業交流プラザにて開催予定。市にも協力を依頼中。
- ・サポートセンターとしても大学との連携は従前から重視しており、昨年、県立保健福祉大学には地域支援研究センターができて、こうした協働事業にも積極的なので、ぜひ組み込んでいきたい。

（懇話会構成員からの質問・意見）

- ・サポートセンターの活動範囲が広がっていくのはいいことだと思う。

- ・今こうして説明を聞いても、あまりに幅広くて把握しきれない。ボランティアや市民活動を何かしたい、という人が来たときに、初心者向けに分かりやすいパンフレットなどがあると良い。

→現在のところ、若者向けには「ボランティア・カフェ」という形で、お茶を飲みながら希望をヒアリングしたり、ボランティアの相談を受ける場を設けている。

シニア向けには4Sクラブがその導入部分を担っていて、サポートセンターの支援をするボランティアグループであると同時に、ボランティア初心者にそこでいろいろな経験してもらい、さらに別の団体のボランティアへ手を広げていってもらおうという役割がある。

4Sクラブ自体のチラシはあるが、初心者向けに様々なボランティアの形を紹介するようなチラシは今のところ無いので、考えたいと思う。(指定管理者)
- ・若者向けの「ボランティア・カフェ」と同じような、中高年向けの企画はないのか。

→4Sクラブの交流会(市民活動フォーラム)がそれに当たる。複数の団体が発表を行い、一般の市民の方に見ていただき、同時に団体同士も交流するというもの。(指定管理者)
- ・昨年度の懇話会で、連絡調整業務においては企業や三浦半島のサポートセンターと連絡を取っていききたい、という話があったが、今年度の事業計画においては「企業」が外れているが、どのような意図か。また、団塊世代の取り組みにおいて市民生活課でも定年退職者の地域参画を促す啓発事業があるので連携を考えていききたいという話があったが、どういう連携だったのか、今年度はどうか。

→今年度の事業計画で「企業」が抜けている点については他意はなく、実際のところ連絡調整業務では企業とも強く連携していかなければならないと考えている。ひくてあまたのお父さんプロジェクトで商工会議所と連携し、定年退職を前にした人のための研修をセッティングしているのもその一つ。また、先程挙げた企業とNPOのパートナーシップ支援事業への参入も企業との連携を前提とした取り組みになる。

市との連携実績については、平成25年度、市が市民公益活動団体から企画を募集する市民協働推進の集いのテーマが「定年退職世代の地域活動への参加・参画」であり、YMCAコミュニティサポートが応募した企画が採用され、ひくてあまたのお父さんプロジェクトのメイン企画となった。(指定管理者)

→市においても以前から定年退職世代が地域で活躍できるための取り組みを進めており、また健康増進・介護予防に取り組む生涯現役プロジェクトも新たに始まったところ。この連絡会議にサポートセンターからも館長に参加いただくことになった。(市民生活課)

→サポートセンターからは、この生涯現役プロジェクトに「生きがいつくり」という柱を盛り込むよう提言していきたい。(指定管理者)
- ・計画書に「三浦」という文字が多く出ているが、三浦市を想定しているのか、三浦半島を想定しているのか。

→市民活動には市境・県境はなく、そういうことを意識せずに活動できるのがNPOの強み。周辺の色々なところと連携していきたい。逗子市においては(高橋館長が)支援センターの懇話会のメンバーとなっており、年数回意見交換をしている。またNPOの学習会は逗子と協働で行っている。(指定管理者)
- ・座間市は市民活動が盛ん。支援施設が新しくなり、人が集まっている。

→参考にしたい。(指定管理者)

2-(4)夏の市民活動・ボランティア体験 2014 について

指定管理者から資料 4 をもとに企画を説明した。

(指定管理者)

- ・今回 14 回目。今まで市民活動やボランティアをしたことがない人を対象にした企画を団体に立ててもらい、サポートセンターが取りまとめ、広報をする。
- ・サポートセンターの登録団体数が年々増え続ける中、特に立ち上げ初期の団体に、サポートを兼ねて、エントリーを勧めている。団体 PR のチャンス。
- ・よこすかボランティアセンターと生涯学習センターとも同じ冊子で企画を PR する。
- ・関東学院大学と県立保健福祉大学への授業内出張 PR は今年も行う。

(懇話会構成員からの質問・意見)

- ・この企画に直接関係することではないが、先程登録団体の話があったが、ホームページに掲載されている登録団体について、掲載情報が年度末で更新されているところと、更新されていないところとが一目でわかるような工夫がほしい。すでに活動していない団体も混ざっているように思われる。例えば年度末に登録情報の更新の有無を確認する際に、返信がなかった場合は一年後にデータを削除する、と明記するのはどうか。団体を探す方の見やすさも考えて。
→検討したい。(指定管理者)

3 議題

3-(1) データベース登録団体と公益性の判断について

指定管理者から資料 5 に沿って前回以降の新規登録・異動団体について説明があった(今回は年度初めということで、全登録団体一覧も添付)。

(懇話会構成員からの質問・意見)

- ・会員数が入っていないものがあるが。
→登録申請書に会員数欄はあるが必須項目ではないため、無記入でも登録は可能。(指定管理者)
- ・活動場所はどこかでわかるのか。
→個人情報伏せたファイルを公開している。また詳しい内容についてはスタッフに尋ねてもらえば、お答えする。連絡先を公開していない団体と連絡を取りたいという希望があれば、その方の連絡先をスタッフが聞いて、団体に取り次ぐ形をとっている。(指定管理者)

4 その他

4-(1) 平成 26 年度市民協働推進補助金、モデル事業選考結果について

市民生活課より資料 6 について説明があった。

(懇話会構成員からの質問・意見)

- ・モデル事業についてはどうなったか。
→応募団体がやむをえない事情で 3 月のプレゼンテーションに参加できなかったため、継続審査中となっている。結果が確定したら市のホームページで公開する。

連絡事項

- ・ NPO 法人 YMCA コミュニティサポートで行っている児童虐待防止の為の養護施設支援事業（WAM 助成事業）についての PR
- ・ 第 2 回意見交換会は平成 26 年 6 月 27 日（金）18：30～サポートセンターにて開催予定。
- ・ 第 2 回運営懇話会は平成 26 年 8 月 21 日（木）18：30～サポートセンターにて開催予定。

以上